

製品・サービス動向-国内

■ACCESS、法人向けクラウドサービスシリーズ「JINSOKU.biz」のラインナップを拡充、Web会議「Room」およびチャット「Linkit」の新サービスを提供開始

株式会社ACCESS(東京都千代田区)は、業務効率化のクラウドサービスシリーズ「JINSOKU.biz(ジンソクドットビズ)」に、Web 会議サービス「Room(ルーム)」を新たに追加した。(7月23日)

JINSOKU.biz は、企業のコミュニケーションの迅速化、活性化、低コスト化を支援する法人向けクラウドサービスシリーズ。同7月23日より、有料の「スタンダードプラン」および「お試しプラン(30日間)」を提供開始するとともに、ドキュメント共有・活用サービス「DocDrive(ドックドライブ)」の「スタンダードプラン」も提供開始する。

Room は、誰でも簡単に使いこなせる操作性とシンプルで柔軟なメニュー設定を特長としている。PC、スマートフォン/タブレットからワンクリックでいつでもどこからでもセキュアな環境でWeb会議を開催できる。会議室の作成・予約・招待、今すぐ開始機能、音声通話・映像配信、ドキュメント管理(WORD や JPEG など)、ホワイトボード、チャット、UI 多言語対応(日本語・英語・韓国語)、ストレージ(10GB~)などの機能を提供する。

初期費用や基本費用は不要。ただし、1ユーザあたり月額2,000円(税抜)。登録は、会議(ルーム)毎の登録ではなく、ユーザ毎の登録となるため、登録メンバー間であれば複数の会議(ルーム)を同時に開催することも可能となっている。

なお、今回同時に、セキュアで高品質なチャットサービス「Linkit(リンクイット)」も提供開始する。このチャット技術は、株式会社ケイ・オプティコム(050 通話アプリ「LaLa Call(ララコール)」のトーク機能に採用されているという。

■日本 IBM、企業向けソーシャル・ソフトウェア「IBM Connections V5.0」を発表

日本 IBM 株式会社(東京都中央区)は、企業向けソーシャル・ソフトウェア「IBM Connections V5.0(コネクションズ)」の提供開始を発表した。(7月24日)

IBM Connections は、企業が必要とするカレンダーやファイル共有などのビジネス機能に加えて、ユーザのプロフィール、ブログ、質問を投稿できるフォーラム、ブックマークなどのソーシャル機能をオールインワンで提供する。

企業のビジネスコミュニケーションをメールなどではなく、ソーシャルチャネルで行うことで、組織やプロジェクトなどのチーム全体での最適化、業務の迅速化、正確な情報に基づいた意思決定を円滑に行える環境づくりを支援するところに特徴がある。

今回発表された IBM Connections V5.0 は、ゲストユーザ機能を追加。社内のユーザに加えて、社外のユーザをコンテンツやプロジェクト別に作成するワークスペース「Community」にゲストユーザとして招待することで、情報共有を円滑にする。加えて、社内外の関係者は、モバイルアプリケーションを通じて、外出先からのコンテンツの活用が容易になる。

ただし、社外ゲストユーザは無料で利用できるが、社外のユーザに参照させる情報を、高いセキュリティ機能を活用することで一部の限定されたコンテンツに限定する仕組みとなっている。

なお、IBM Connections は、IDC のレポートにおいて、エンタープライズ・ソーシャル・ソフトウェア分野で 2013 年に 5 年連続となるマーケットシェア1位を獲得している。

■グーグル、Web ベースのビデオ会議ソリューション「Chromebox for meetings」の日本発売を発表

グーグル株式会社(東京都港区)は、国内の企業向けに Web ベースのビデオ会議ソリューション「Chromebox for meetings」の提供を開始すると発表。これは、2月6日北米 Google 社から発表されたのを受けて日本での正式発表となる。(Google エンタープライズ公式ブログ:7月30日)

Chromebox for meetings は、Chrome OS を使用した小型パソコンである Chromebox に、Google+ハンダアウトと Google Apps の機能を集約し、高解像度のカメラ、マイク、スピーカユニット、リモコンといった会議システムに必要なソフトウェアとハードウェアによって構成されている。

ディスプレイとシンプルな設定で、数分でセットアップが行える。また、Web 上の管理コンソール(年間使用料:35,000円)を使って、全ての会議室を管理できる。24 時間サポートもある。

会議を始める際には、ダイヤルイン番号、パスワード、暗証番号は必要なく、部屋に入りリモコンをクリックするだけで簡単にミーティングが行えるようになっている。Google Apps と統合されているため、他のメンバーを招待したり、Google カレンダーからテレビ会議の部屋の追加も簡単だ。加えて、ノートパソコンの画面をワイヤレスで共有もできる。

ノートパソコン、タブレット、スマートフォンなど最大 15 の場所から同時にテレビ会議に参加することが可能。Chromebox を利用していないクライアントとの打ち合わせも大丈夫だ。

メーカー希望小売価格は 15 万円。なお、Chromebox for meeting は、ソフトバンクテレコム株式会社および、今後順次拡大する各販売会社から販売される。

*関連記事: 2014 年 2 月 15 日号

ビジネス動向-国内

■ポリコムジャパン:東京オフィスを新宿に移転、「東京カスタマ エクスペリエンス センター (TCEC)」をオープン、テレワークを積極的に推進

ポリコムジャパン株式会社(東京都新宿区)は、東京オフィスを新宿に移転し、7月7日新オフィス内に「東京カスタマ エクスペリエンス センター(TCEC)」をオープン。記者向けに新オフィスを披露し、合わせて、同社で実践しているビデオ会議システムを使った新しい働き方を紹介した。(取材:7月10日)

ポリコムジャパンには、日本人以外の外国人社員のほか、さまざまなライフステージにいる社員がいる。少数精鋭で、時間的にも物理的にも限りがある中でいかにして生産性の向上と業務の効率化を図っていくかは必須の課題だ。また、悪天候や災害時あるいはパンデミックの対応といった事業継続・リスクマネジメント対策も不可欠だ。

そういったことから、どこで仕事をしていても、あるいは、3.11 のような災害が発生しても、社員同士がサイド by サイドで仕事ができることが必要になってくるため、ポリコムジャパンでは、会社のオフィスだけでなく、テレワークの活用を中心とした多様で柔軟な職場環境(ダイバーシティ推進戦略)を構築している。

このような職場環境を構築するためには、「制度改革」「インフラ・運用ルールの整備」「オフィスの最適化」が重要だとしている。

制度改革の面では、全社員を対象としており、上長の許可を得ることで基本的に誰でもが利用することが可能となっている「テレワーク・フレックス制度」を導入している。テレワーク対象の社員は、コアタイム(11時~15時)に勤務していれば、開始時間と終了時間は 8 時間の間で自由に設定可能となっている。さらに、育児休業(最長1年)や介護休業の制度も充実しており、現在復帰率は 100%という。

こういったテレワーク環境を提供する上で、社内の情報イ

ンフラと運用ルールの整備は欠かせない。同社では社員に、VPN ネットワークに対応したモバイル PC を常に携帯させている。Outlook によるスケジュール管理、「Microsoft Lync」によるプレゼンス管理、VoIP フォン(社用電話)、ビデオ会議のアプリケーション「Polycom RealPresence Desktop」がインストールされており、いつでもどこでも他の社員の状況がすぐわかるとともにコミュニケーションもスムーズに行えるようになっている。

加えて、顧客対応等で全国出張が多い社員の足場として、全国 50 拠点のリージャスをサテライトオフィスとして利用可能にしている。テレワークとサテライトオフィスを上手く組み合わせることで顧客・パートナーに対するさらなる迅速な対応が可能になったという。

一方、運用ルールとしては、勤務時間中のプレゼンス表示や個人 Outlook スケジュール開示などを行っているほか、テレワークを問題なく運営するために、定期的な部門長との面談や問題確認も行っている。加えて、社員が業務や個人の人々の事情に応じて働いていることから、必要に応じて社員間のコミュニケーションを図る場も積極的に設け、バーチャルなミーティングとリアルなバランスも図っている。

この新宿に開設した新オフィスは、このダイバーシティ推進戦略の一環であり、さまざまな社員の働き方を支援するため、これまでのノウハウを基にオフィス環境を構築している。



(写真：ポリコムジャパン)

新オフィスは、技術職および固定席が必須の専門職以外

は、フリーアドレスにし、必要な時だけオフィスへ出勤(モバイルワーカー)する形になっている。また、社長が不在の際に社長室を会議室として自由に利用することも可能(ただし予約制)にした。これらにより、オフィススペースを最適化(約50%減)が可能になった。

一方、新たにオープンした、東京カスタム エクスペリエンス センターは、会議室からモバイルワーカーまで多種多様なコミュニケーション・コラボレーションを提供できるポリコムソリューションを体験(エクスペリエンス)できる場である。アライアンスパートナーとの提携ソリューションも体験できる。



(写真：ポリコムジャパン)

今回の記者発表会では、営業担当者を例に通常業務においてテレワークがどのように有効活用されて効果をあげているか、また、育児や介護などにおいて社員の働き方にもどのように役立っているかについて社員の具体的な事例も紹介された。

「テレワークを社内で実施していく上で、まずトップの理解とトップ自らの実践、そして、全社員の理解と積極的な推進も不可欠であると認識している。また、テレワークの効果のひとつとして、こういった働き方によって、社内秘などの情報をどう扱うかなどセキュリティに関する社員の意識も向上した。」(ポリコムジャパン ビジネスオペレーションズ担当)

「ビデオ会議は社員の柔軟な働き方を支える力を持っていると実感している。」(ポリコムジャパンマーケティング担当)

■ビットアイルとブイキューブ、Web 会議クラウドソリューションで協業

データセンター運営の株式会社ビットアイル(東京都品川区)と株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、クラウドを活用した Web 会議などのビジュアルコミュニケーションサービス領域において協業する。(7月16日)

協業の目的は3つある。

(1)Web 会議クラウドサービス「V-CUBE」の拡販:ビットアイルのグループ企業である AXLBIT 株式会社(東京都品川区、アクセルビット)は、ブイキューブより「V-CUBEミーティング」の OEM 提供を受け、SaaS プラットフォーム「AXLBOX」上で取扱い拡販する。また、AXLBIT は、第一弾として、Web 会議サービス「AXL ミーティング by V-CUBE(アクセルミーティング バイ ブイキューブ)」を提供する。

(2)ビットアイルのインフラ上での V-CUBE 提供:ビットアイルのインフラは、堅牢で高い柔軟性が評価されている。そのインフラ上に V-CUBE サービスを提供する。

(3)新サービスの共同開発:ユーザ専用インフラでサービス提供を行うプライベートクラウドモデル等の新規開発を共同で実施する。

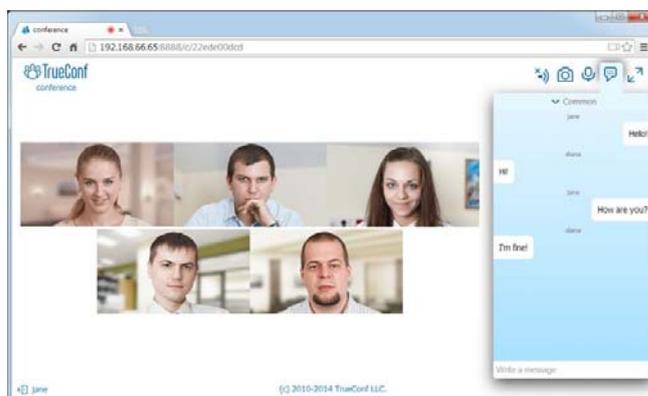
クラウドサービスの普及により、企業におけるIT投資への考え方や IT サービスの利用は大きく変化し、ビジュアルコミュニケーションの活用は進んでいる。また一方で、セキュリティを重視する事業や業務においては、ユーザのニーズが多様化するなかで、堅牢かつ専用型のサービスが求められている。ビットアイルとブイキューブは、協業により両社の強みを生かし、ビジュアルコミュニケーションにおける柔軟なクラウドソリューションを提供するとしている。なお、アクセルビットは、2014 年内に AXLBOX 上で約 30 タイトルのアプリケーションサービス提供を予定している。

製品・サービス動向-海外

■TrueConf 社、「TrueConf Server 4.2.5」をリリース、LDAP や WebRTC 機能の強化など

TrueConf 社(ロシア、モスクワ)は、ソフトウェアビデオ会議サーバ「TrueConf Server」の最新版である「TrueConf Server 4.2.5」をリリースした。(メール取材:7月23日)

新たに追加された主な機能は以下の通り。(1)WebRTC での会議中にインスタントメッセージングを行える機能。(2)WebRTC をサポートしていないブラウザでも会議招待メールのリンクをクリックするだけで会議に参加することができる。プリインストールを必要としないクライアントアプリによって可能になった。(3)Android 用クライアントアプリは、Google Play からだけでなく、ゲストページからもダウンロードできるようになった。(4)LDAP との統合機能の強化を行った。上記4点のほか多くの機能改善や強化が行われている。



WebRTC ユーザインターフェイス (TrueConf)

TrueConf 社としては、これまで WebRTC クライアントの機能について、Windows、iOS、Linux クライアントと同じ機能を実現するために常にアップデートを行ってきており、今回のアップデートにより、インテグレータやサービスプロバイダーの要望を満たすことができる WebRTC ソリューションを提供できるところまで来たと自信を見せる。

なお、今回の発表にあわせて、Windows および OS X クライアントのアップデート「TrueConf Client for Windows version 6.4.4」「TrueConf Client for OS X version 1.2.2」も行

っている。RTSP カメラ用のヘルプなどが追加されている。

ビジネス動向-海外

■TrueConf 社、SVC ベース & MCU 不要のユニファイドコミュニケーションソフトウェアプラットフォーム、海外展開を加速

「我々は、当社の TrueConf ビジョンを共有していただける日本のパートナーを見つけたいと思っている。」(マーケティングディレクター Lev Yakupov 氏)(Web 会議取材:7 月 3 日)

TrueConf LLC(以下、TrueConf 社)は、2003 年モスクワ大学コンピュータサイエンス学部の卒業生が起業して設立した会社。非公開企業。現在社員は 90 名で、モスクワとウクライナ(ドネツク)の 2 か所にオフィスがある。

TrueConf 社が提供しているのは、SVC ベースのユニファイドコミュニケーションソフトウェアプラットフォーム。クライアントは Windows、OS X、Linux、iOS、Android に対応しており、MCU を使用しない(MCU-less)多地点ビデオ会議を実現している。加えて、既存のビデオ会議システムや WebRTC、PBX、PSTN などとの相互接続も可能だ。エンタープライズ、SMB、通信事業者、サービスプロバイダー向けに提供している。

「不安定な公衆インターネットでの使用を考慮して SVC と MCU レスを採用している。帯域とデバイスの性能に応じて通信を最適化しているため快適なビデオ会議が TrueConf で行えるのが特長だ。」(同 Lev Yakupov 氏)

製品・サービスとしては、オンプレミス版の「TrueConf Server」、クラウド版の「TrueConf Online」、そして、ハードウェア端末と組み合わせた「TrueConf Terminal」を提供している。

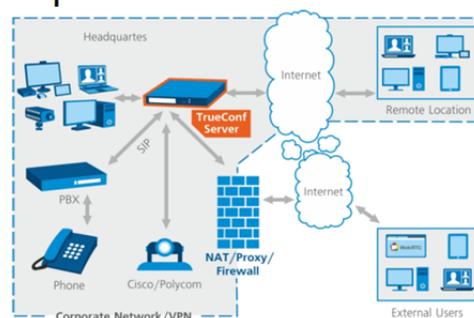
TrueConf Server は、オンプレミス版のサーバソフトウェア。ゲートウェイ機能を内蔵している。最大 250 名/16 画面分割の多地点会議が可能となっている。加えて、1対1の通話であれば最大 1080p 解像度での通話が可能という。さら

に、多地点接続では最大 4K にも対応する。ただし、その場合、少なくとも 5 人以上の会議参加者が必要となる。

プレゼンスにより相手をクリックすることですぐに通話できる。TrueConf クライアント同士の接続以外にも、SIP によるビデオ会議端末や PBX との連携、あるいは PSTN との接続も可能だ。加えて WebRTC を会議に参加させることもできる。その際は内蔵のゲートウェイ機能を使用する。

会議機能としては、ビデオ、音声、資料共有、レコーディング、チャット、ファイル送信、アドレス帳(プレゼンス)、会議予約、管理(ユーザ登録など)などの機能を提供している。なお、通信は、通信は TCP をベースとしており、セキュリティは、SSL と AES256 に対応している。

On-premises – TrueConf Server



- Native protocols: proprietary TCP-based, WebRTC, RTSP + VP8 SVC
- Via Built-in Gateway: SIP + H.264 AVC, H.263, Speex, G.7xx.

TrueConf Server システム構成図 (TrueConf)

WebRTC による会議参加の場合はゲスト参加者として接続となるが、リンク(URL)から会議室に入れる。特別なアプリは必要なくブラウザだけでよい。

一方、TrueConf Server のセットアップは基本的には 15 分で完了する簡単さという。チュートリアルに沿って、ソフトウェアを同社の Web サイトからダウンロードしてインストール。そして必要な設定を行えば完了だ。通常のサーバインストールのほか、仮想化環境にも対応する。

(次ページに続く)



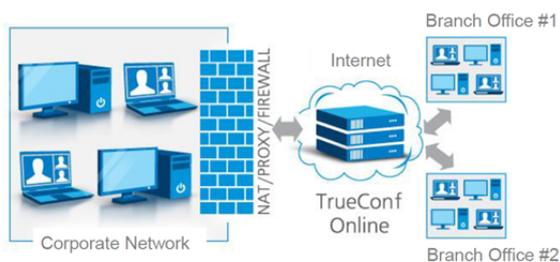
Web インターフェイス管理画面 (TrueConf)

次に、クラウド版である TrueConf Online の機能は、TrueConf Server で提供する機能と基本的には同じだが、2014年7月31日現在ではゲートウェイには未対応となっている。つまり、TrueConf クライアントだけでの通話となる。

「TrueConf Online はとても好評で、クライアントのダウンロードはすでに 50 万ダウンロードを超えている。」(同 Lev Yakupov 氏)

利用料については、3 人までの会議であれば無料となっている。また、ユーザログインでは、フェイスブックや Google、Twitter のアカウントからのログインにも対応している。

Hosted — TrueConf Online



- Native protocol: proprietary TCP-based protocol
- Native codecs: VP8 SVC (video) + Opus (audio)
- No gateway to other protocols (yet)

TrueConf Online システム構成 (TrueConf)

「当社のビジネスとしてはオンプレミスを軸としているが、TrueConf の認知も広げていきたい。そういった意味では、クラウドサービスの一部を無料にすることでより多くの人に使ってもらえるようにしている。」(同 Lev Yakupov 氏)

TrueConf Terminal



- 10" capacitive touch panel
- Added PTZ camera control
- Provided as Windows app for partners

TrueConf Terminal インテグレート例 (TrueConf)

最後に、TrueConf Terminal は、TrueConf の Windows 版クライアントソフトと、ディスプレイ(タッチパネルも含む)、カメラ、マイク、スピーカを組み合わせたソリューション。ソフトウェアは TrueConf 社から提供するが、それ以外の部分については、販売パートナーがインテグレートする形になっている。オンプレミスおよびクラウド両方に対応する。

TrueConf 社によると、今後、TrueConf のユーザインターフェイスの刷新を予定しているという。全ての端末で同じユーザインターフェイス、エクスペリエンスを提供するためだ。また、言語については 11 か国語に対応しているが、日本語化については、現状、モバイルクライアント(iOS/Android)では対応しているが、デスクトップ(PC)とサーバについては今年中に日本語化を完了する予定という。これら以外にも、ロードマップ上では性能や機能改善などのアップデートを予定している。

同社のシステムは CIS 市場において 15%シェアを持ちロシア国内では認知度が高いという。近年は、TrueConf 製品の販売拡大の一環として、ロシアやポーランドでセミナーを開催しているほか、ヨーロッパで開催されている Integrated Systems Europe や米国の Enterprise Connect や InfoComm などにも出展している。加えて、Wainhouse Research 社の WR Bulletin 誌のロシア語翻訳も手がけている。

2013 年にはロシア国内や CIS 諸国で 20%売り上げが増加したほか、海外での売上が 3 倍増を記録した。TrueConf の販売パートナーは 2013 年に 20 社増え全世界に 40 社以上

となったが日本のパートナー開拓はこれからだという。

■中国のサービスプロバイダーNet236 社、Compunetix 社の通信事業者向け多地点接続装置「CONTEX Summit」を採用

Compunetix 社(米国、マサチューセッツ州)は、Net263 社(中国、北京)がCompunetix 社の通信事業者向け多地点接続装置「CONTEX Summit」を採用したと発表。(7月24日)

Net263 社は、2011年の設立以来、中小企業向けに、電話会議、ビデオ会議、モバイル会議などさまざまなサービスをワンストップで提供している。政府関連、高等教育機関、タスリーグループ(日本:株式会社タスリージャパン)などの大手企業など多くのユーザが利用している。

CONTEX Summit の処理能力、高品質な音声、信頼性あるいは強力な API などから、導入からわずか1年ほどで、市場シェアが15%から30%まで拡大したという。

なお、Compunetix 社の多地点接続装置は、世界30か国で100万ポートが設置されているという。

■Vidyo 社、ビジュアルコミュニケーションの今後の広がりに対応するため2,000万ドルの増資

Vidyo 社(米国、ニュージャージー州)は、Internet of Things(モノのインターネット、出典:Wikipedia)などビジュアルコミュニケーションの今後の広がりに対応するため2,000万ドルの増資を発表。設立後からこれまでの資本金総額は、1億3,900万ドルに達する。(7月11日)

同社では、今後、Internet of Things への動きを契機に、モノとモノをつなぐだけでなく、人と人とのビジュアルコミュニケーションを軸とした“connected world”が広がっていくと予想する。今回の増資は、そういった世界のトレンドに対応していくために、Vidyo 事業戦略をさらに加速する狙いがある。

その際に同社の武器となるのが、ワークフローなど業務プロセスに統合しやすい特長を持つ「VidyoWorks プラットフォ

ーム & API」。たとえば、電子医療記録(Electronic Medical Records、EMR)システムとのインテグレーションなどの例があるという。今回の資金を元手に、VidyoWorks のセールスとマーケティングを強化する。

セミナー・展示会情報

<国内>

■Polycom Day 東京:飛躍的に広がる Microsoft Lync コミュニケーション <追加開催!!>

日時:8月1日(金)15:30~16:30(受付:15:15)
会場:ポリコムジャパン オフィス(東京都新宿区)
主催:ポリコムジャパン株式会社
詳細・申込:<http://www.polycom.co.jp/company/events.html>

■BIG PAD を活用したクラウド型 Web 会議サービス「TeleOffice」体感セミナー

日時:8月6日(水)/8月20日(水)14:00~16:00
*4月以降9月まで毎月開催
会場:シャープ株式会社 東京支社
主催:シャープビジネスソリューション株式会社
詳細・申込:<http://www.sharp-sbs.co.jp/event/regular/teleoffice-a.html>

■後悔しない Web 会議を選ぶために事前チェックすべき「6つのポイント」セミナー~大阪・東京で同時開催!~

日時:8月21日(木)15:30~17:00(受付開始:15:00)
会場:キャノンソフトウェア 大阪堺筋事業所
主催:キャノンソフトウェア株式会社
詳細・申込:<https://reg.canon-soft.co.jp/public/seminar/view/226>

■後悔しない Web 会議を選ぶために事前チェックすべき「6つのポイント」セミナー~東京・大阪で同時開催!~

日時:8月21日(木)15:30~17:00(受付開始:15:00)
会場:キャノンソフトウェア 本社(東京都品川区)
主催:キャノンソフトウェア株式会社
詳細・申込:<https://reg.canon-soft.co.jp/public/seminar/view/224>

■ポリコム&プリンストン ソリューションフォーラム 2014

日時:8月21日(木)14:00~18:00(受付13:00~)
会場:ザ・リッツ・カールトン東京(東京都港区)
共同開催:ポリコムジャパン株式会社/株式会社プリンストン
詳細・申込:
<http://www.princeton.co.jp/news/2014/07/201407281100.html>
※アイ・ティ・アール シニア・アナリスト 舘野 真人氏の基調講演もあり。
※当日はプリンストンの大阪支店・福岡支店において、ビデオ会議でのセミナー 視聴も予定。

■Polycom Day:『さまざまな「距離」を越えて-ポリコムが解決します!』最新ソリューションのご紹介(予定)

日時:8月27日(水)15:30~16:30(受付:15:15)

会場:ポリコムジャパン 新オフィス(東京都新宿区)

主催:ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込:<http://www.polycom.co.jp/company/events.html>

国内その他:<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他:<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

* イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作:カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

情報発信について

CNAレポート・ジャパン(橋本啓介)では、国内外における、「製品・サービス」「ビジネス」「ユーザ導入・利用」「決算発表」「人事発表」「市場統計データ」「セミナー・展示会」といった観点から、インターネットに公開されている、各社のプレスリリースやお知らせ、ニュースメディアサイト、ポータルサイト、ブログ、掲示板、youtube、メルマガ、Linkedin、Twitter、Facebook、google+などに掲載されている遠隔会議関連の情報を日々収集しております。

下記配信では、市場トレンドを見ていく上で参考になると思われる情報を精査したうえで配信しています。皆さまの情報収集と合わせてご利用いただければと存じます。

定期レポート(15日・月末発行):各社からのプレスリリース、CNAレポート・ジャパン直接取材による記事

Dtc-forum メーリングリスト、フェイスブック&Twitter(それぞれほぼ毎日配信):定期レポートであつまっている各社からのプレスリリースや直接取材に加え、遠隔会議システムに関する情報全般。

詳細は、<http://cnar.jp>「情報配信について」をご覧ください。

CNAレポート・ジャパン広告掲載企業

■株式会社日立ハイテクノロジーズ

<http://www.hitachi-hitec.com/hitec-vision/product/list/mirial/index.html>

編集後記

今号もお読みいただきありがとうございました。

6月27日にサンフランシスコで開催されたWebRTCのカンファレンス「KRANKY GEEK WEBRTC SHOW」。映像はyoutubeにあります。最新のWebRTC動向についてのセッションが視聴できます。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLOU2XLYxmsILM4q-aaVpYgRM5XTCnQuVt>

KRANKY GEEK WEBRTC SHOW

<http://www.krankygeek.com/>

次号もよろしくお願ひ致します。

CNAレポート・ジャパン 橋本啓介